



(弥生)

## 西公民館だより

この季節は例年であれば各地の春まつりと共に人々の心も浮き浮きとしている筈ですが、蔓延し続けるコロナ禍は収束の気配が無く日常生活の行動には制約や自粛が余儀なくされています。

西公民館では開催間際に舞踊の”おさらい会”が延期となりましたが、「文芸作品展示会」は感染防止の措置を行って開催しておりますので、来館時にはマスクの着用と手の消毒や検温をはじめ3密を避けるなどの策を講じていただいて、ご観覧くださいますようお願い致します。



館長 志村 克美

主事 津田 はるみ

## 作品展示会のご案内

西公民館の各教室参加者と地域の皆さまから出展していただいた文芸作品の「展示会」を開催していますので、公民館を使用される際に、館内の展示作品を鑑賞してくださいますようご案内いたします。

記

展示期間 令和4年3月 1日（火）から  
令和4年3月15日（火）まで

\* 公民館が使用されていない場合は下記に連絡してください。  
(館長 [ ] 又は主事 [ ] まで)



# ふれあい文芸

## 下西区「いきいきサロン」川柳部

運動と笑いの日々で老い知らず  
根岸 詩子

長い歳月出会いと別れが流れゆく  
若杉 政子

筆先の乱れを隠し元気です  
古屋 孝子

雀来て南天の赤食べつくす  
秋山 寿子

ゆず風呂でコロナ二年振り返る  
吉野富士子

年ごとに年賀状の数減ってきた  
三森 郁子

なつかしいツララが出来る寒い朝  
望月八重子

夢の中イルミネーション二人連れ  
鈴木 節子

何だっけ自問自答の日々多し  
吉川 燐子

畑隅に角ぐむみどり路の臺  
石原 幸子

## ひこばえ塩山短歌会

此の夏の猛暑に耐えし百匁柿オレンジ色に秋空に映ゆ  
赤き実はそのまま残す百匁柿大小の鳥順におとずれ  
朝夕の冬の寒さに石路の花はさやかに励ましくるる

武川 玉子

雪の富士姿美し晩秋の干柿づくり今盛りなり  
ころ柿の作業終えれば年末で無事に過ぎたと安堵するなり  
霜月の風に吹かれ桃園は冬木立なり寒々と見ゆ

古屋 和子

老い松の太き根元を明るめて石路の花黄の色鮮やか  
兄弟の年賀状に見るなつかしき個性ある文字に幼な日想う  
久々ににぎやかに迎えしお正月三ッ葉の香るお雑煮を飯む

小林 節子